

令和3年度 第13回 名取市総合教育会議 議事録

1 会議の年月日

令和3年5月27日(木)

2 会議の場所

名取市役所3階 議会棟第3・第4委員会室

3 出席者

市長 山田 司郎

教育長 瀧澤 信雄

教育長職務代行委員 佐藤 俊隆

教育委員 浅野 かおる

教育委員 洞口 ひろみ

教育委員 荒井 龍弥

4 欠席者

なし

5 傍聴者

なし

6 説明のために出席した者

菊池教育部長、鈴木理事兼学校教育課長事務取扱、大澤教育部次長兼生涯学習課長、芳賀教育総務課長、小松文化・スポーツ課長兼復興ありがとうホストタウン推進室長兼市史編さん準備室長、高橋指導主事、森下指導主事、群司社会教育主事、宇田教育部企画員兼教育総務課長補佐、菅原教育総務課教育総務係長

7 議題

(1) 地域学校協働活動の取組について

(2) 不登校等児童生徒及び学び支援教室充実事業の取組及び各校の不登校対策について

8 開会時間

午後1時00分

9 会議の概要

芳賀教育総務課長

それでは、定刻となりましたので、始めさせていただきます。

会議に入ります前に、資料の確認をお願いします。第13回名取市総合教育会議次第と、議題資料として、資料1-1、名取市地域学校協働活動手引き、資料1-2、令和2年度名取市地域学校協働活動実践事例、資料1-3、名取市の目指す地域学校協働活動における行政の体制、資料2として、不登校等児童生徒及び学び支援教室充実事業の取組及び各校の不登校対策について、の資料を用意しております。不足がありましたらお教え願いたいと存じます。よろしいでしょうか。

また、本日の会議は、原則公開となっておりますので、ご了承願います。

それでは、ただいまから会議を開催いたします。開催にあたりまして、山田市長からご挨拶を申し上げます。

#### 山田市長

本日は、大変お忙しいところ第13回となりました総合教育会議に、瀧澤教育長をはじめ教育委員の皆様にご出席いただき、ありがとうございます。

昨日5月26日から、75歳以上の方の新型コロナウイルスワクチン接種が始まりました。昨日から今度の日曜日までは402名を目途に進めておりますが、おかげ様で今のところ大きなトラブルもなく進んでおります。来週からは564名をベースにしなから、場合によっては最大660名まで接種することも念頭に入れながら進めております。7月末までには何となくでも65歳以上の高齢者の方の、2回目の接種まで完了したいという想いで、職員一丸となって進めております。場所を市民体育館に変更していただく等、教育委員会の皆様にもご尽力、ご理解をいただいておりますこと、改めて感謝を申し上げます。

本日の総合教育会議のテーマは、地域学校協働活動の取組について、と、不登校等児童生徒及び学び支援教室充実事業の取組及び各校の不登校対策についてとしました。いずれもこれからの名取の教育に必要な施策と考えております。

本日は、委員の皆様方から忌憚のないご意見を賜り、今後の教育行政、さらには市政発展のための方策とさせていただきたいと考えております。

1時間という短い時間での会議となりますが、効率的に進めていきたいと思っておりますので、ご協力をお願い申し上げます。

#### 芳賀教育総務課長

それでは、3の議題に入ります。ここからは、名取市総合教育会議設置要領の第4条第3項により、市長が議長として議事を進めていただきます。山田市長、よろしく願います。

#### 山田市長

それでは次第に沿って進めてまいります。よろしくお願いいたします。

まず初めに、議題(1)地域学校協働活動の取組についてであります。

事務局から、資料に基づいて説明をお願いします。

## 大澤教育部次長兼生涯学習課長

生涯学習課の大澤でございます。お手元にお配りしております資料1の1から1の3までを用いてご説明いたします。着座にて説明いたします。

それでは、地域学校協働活動の取組についてご説明いたします。

初めに、当市における地域学校協働活動の取組の経過ですが、令和元年度に市内15学校区のうち6つの学校区で協働活動の取組が始まり、令和2年度には3つの学校区が加わり9学校区において取組がなされました。取組が3年目となる今年度は、新たに6つの学校区が加わり市内全ての小・中・義務教育学校区に地域学校協働本部が設置され、協働活動が実施される予定となっております。

本日の説明は、主に3つの項目についてご説明いたします。1つ目は、令和2年度の地域学校協働活動取組の概要について、2つ目に、令和3年度の協働活動の取組について、3つ目に、地域学校協働活動に対する市のかかわりについての3点です。

それでは、1つ目、令和2年度地域学校協働活動取組の概要についてご説明いたします。資料1の2、令和2年度名取市地域学校協働活動実践事例、1ページをご覧ください。増田小学校では、学校支援活動として、登下校の見守りや家庭科ミシン学習補助が行われました。また、新型コロナウイルスに対応した活動として、学校消毒のボランティア活動が行われております。成果としては、学校消毒作業に週2回来てもらい助かっていることや、見守りのおかげで安全な登下校ができていたことが挙げられています。一方、課題として、活動内容の広報や継続的なボランティアの募集、コロナ禍での活動などが挙げられています。

1枚めくっていただきまして、愛島小学校でも、新型コロナウイルス対応として、朝の検温カードチェックや書籍の除菌を行う図書ボランティアに取り組んでいただいております。

次に、13ページをご覧ください。増田中学校では、同様にウイルスバスターとして消毒作業やセリ農家見学、15ページの第二中学校では、防災講演会を補助する取組がなされております。

次に、説明事項2つ目の令和3年度の協働活動の取組及び3つ目の地域学校協働活動に対する市のかかわりについてを併せてご説明いたします。資料1の1、協働活動の手引き、5ページ下段をご覧ください。地域学校協働本部の構成員として各公民館長も参与として参画し、地域の皆様とともに協働活動の推進に努めております。令和2年度における公民館の具体的取組として、令和3年度から始まる高館小学校学区での協働活動を見据え、高館公民館主催でボランティア養成講座を開催した事例があります。

続いて、8ページの地域コーディネーターは、学校のニーズや地域住民の思いを拾い集め、協働活動へ結びつける役割を担っていただいております。今年度は13学校区29名の地域コーディネーターに委嘱状を交付しております。なお、下増田小学校区は下増田公民館が、相互台小学校区は相互台公民館がそれぞれコーディネート機能を担うことで活動に取り組んでおります。統括コーディネーターは、生涯学習課がその役割を担っております。

続いて、21ページをご覧ください。令和3年度の地域学校協働活動であります。先に申し上げましたとおり、市内15全ての学校区に協働本部が設置され、地域学校協働活動が実施されます。協働本部と市のかかわりは、公民館も協働本部に構成員として加わりながら、

側面的支援を行ってまいります。広域連携担当職員を配置する増田・愛島・増田西・ゆりが丘・閑上公民館は、中学校通学区域の協働活動の支援及び地域連携事業の企画調整を行ってまいります。

1枚めくっていただき、22ページ、予算措置ですが、各本部と市において委託業務契約を締結し、委託料の上限を34万円としています。その内訳は、地域コーディネーター謝金が24万円、活動経費が10万円としております。

次に、資料1の3をご覧ください。先ほどご説明いたしました、広域連携担当職員を配置する5つの公民館と中学校通学区域内の小学校区協働本部を図示したものです。この中で、令和3年度から新たに活動を開始する6つの学校区は、第一中学校区、館腰小学校区、高館小学校区、増田西小学校区、ゆりが丘小学校区、閑上小中学校区の6つとなります。下の枠の中の二つ目の四角、広域連携担当職員を配置する公民館は、中学校区の協働活動を支援することになりますが、今年度の具体的取組として、中学校区エリアごとに地域コーディネーターの情報交換の場を設定し、各学校区の情報共有を図る取り組みを実施したいと考えております。

以上で、地域学校協働活動の取組についての説明を終わります。

山田市長

ありがとうございます。ただいまの説明を踏まえ、協議を進めてまいります。

はじめに、ただいまの説明で確認しておきたい事項や、これまでの取組についてのご感想などあれば、お願いします。

佐藤教育長職務代行委員

今年の3月に、愛島小学校の卒業式に出席しましたが、卒業生の言葉の中で、保護者の検温チェックや、教室の消毒等についての感謝が述べられていて、子供たちの心に入っているのだな、と思いました。無理な活動をする必要はなく、本当に必要とされていること、例えばコロナ禍をどう乗り越えるのかとか、地域の農業の体験の機会を提供するとか、あるいは伝統芸能など、地域の財産を生かした活動をすれば、学校、児童生徒にもプラスになって、地域にもプラスになる、ということが一番いいことなんだろうな、と思いました。たとえ予算がつかなくなっても、ずっと続くということが大切なので、ぜひ自然体で、公民館が中心になりながらやっていただければいいな、と思いました。

山田市長

子供の卒業式の中での感謝の言葉にあるということは、学校だけではなくて、地域に見守られて育ち、学んでいるということをお子たちの中で認識されているのだと思います。そういう意味では素晴らしいことだと思います。無理なく、必要とされることをやっていくのがいいのではないかと、というご意見でした。

他にありませんでしょうか。荒井委員、いかがでしょうか。

荒井委員

私の住む町内会で、学校から依頼があったり、周知されたりしたときに、「地域学校協働活動」とはどのような活動か、ということを知られました。学校の関係者、保護者ならわかっているのかと思いますが、既に子育てを終えられた方などは、まだまだ、「何のことだろう」という感じなのかな、という感想を持ちました。やはり、周知は必要で、今後の課題になるのだろうと思います。

山田市長

地域の中での周知の方法ですね。お子さんが卒業されたなどで、現在あまり学校とかかわりがない方への周知をどうするのか。

この辺は何か事務局であるのでしょうか。

群司社会教育主事

昨年度も行いましたが、広報での周知、市のウェブサイトでの周知、また、なとらじへ出演し、紹介もさせていただきました。さらに、生涯学習課で「協働活動だより」というものを年に3、4回発行し、学校と公民館に配布し、市のウェブサイトにも載せております。また、各協働本部でも、独自に協働活動だよりを発行して、地域に回覧しているという事例もあります。

山田市長

生涯学習課で発行しているもの以外に、各本部で出している事例もある、とのことですが、出していない事例もあるということでしょうか。

群司社会教育主事

出していない事例もございます。

山田市長

公民館だよりなどでお知らせするという事はないのでしょうか。

群司社会教育主事

そうですね、学校だよりに掲載いただいたり、公民館だよりに掲載したり、という事例もございます。相互台公民館に関しては、4月に公民館だよりと一緒に協働活動だよりを発行し、全戸に配布しております。

山田市長

デジタルよりも紙ベースを好む方もいらっしゃるもので、様々な手段を通じて周知いただきたいと思います。

他にありますか。浅野委員お願いします。

浅野委員

周知に関しては、この事業が始まったばかり、ということと、令和2年度はコロナ禍の影響で、地域全体で関われるようなイベント等ができなかったということで、周知も難しかったと思うのですが、身内だけの中での理解というか。今後、コロナの状況が変わらないと、地域全体の周知というのは難しいと思うし、相互台公民館で便りを出していますが、相互台で定着しているのは、もともと平成19年度から始めたコラボスクール事業の指定校になったときからの歴史があって、ここまでの定着があると思うので、地道に、長い時間をかける必要があるのではないかと思います。

山田市長

身内だけのものにとどまらないように気を付けなければならない、ということですね。ありがとうございます。洞口委員は何かありますか。

洞口委員

この事業につきましては、子供たちが学校だけでは体験できない、社会を作っていく上での、大事な取組の一つだと思います。ただ、昨年はコロナ禍の中、なかなか思うように活動ができない地域の方々もいらっしゃると思うのですが、無理して毎月やっている地域もあったようです。報告としては、便りをカラーで作成し、公民館だよりと一緒に配付し、地域の人たちは、なるほど、こういう活動をやっているのだ、と分かると思うのですが、やはり、無理をしない程度に、四半期に1度ぐらいの頻度でもいいので、それを充実したものに、子供たちのことを考えて、地域の人たちにも無理のないように計画を練った方が、無理して毎月やらなくてもいいのではないかと思います。

山田市長

長く続けられるように、ですね。

洞口委員

そうです。最初に飛ばし過ぎて、続かなくならないように。

山田市長

確かにそういう事例もありますね。

子供たちの社会性を養う、大切な事業だということをご提示いただきました。

教育長何かありますでしょうか。

瀧澤教育長

子供たちが地域の方と関わる機会というのは、私が教員になってからも、年々少なくなってきたのではないかと、学校にいるときも危機意識を持っていました。ある学校にい

たときに、地区民運動会と学校の運動会が別々になっていたのですが、学校で話し合っ、子供たちが地域の方と一緒に何か活動する、という機会を設けた方がいい、ということで一緒にやることとなりました。他にも、見守り隊の活動もありますが、この、地域学校協働活動は、子供たちが自分たちのいる地域の方と触れ合う貴重な機会だと思います。それがさっき、佐藤俊隆委員がおっしゃったように、子供から感謝の声となって出てくるということは、それだけでもとても素晴らしいことだと思います。

また、地域によって歴史や実態が違うので、いくつか意見が出たように、全てが型にはまった活動をやる必要はないと思いますので、緩やかなネットワークでいいのだと思います。ただし、それが緩やかだけでは、そのうちすぐになくなってしまいますので、各本部のコーディネーターをきちんと育成することと、生涯学習課と公民館がきちんと関わっていくということで、緩やかながらも長続きするような地域学校協働活動にしていきたいと思います。また、全ての地区で行うのは初めてなので、色々なご意見を伺いながら取り組んでいきたいと思いますので、これからも機会があれば取り上げていただいて、市長部局との連携も必要ですので、取り組んでいきたいと思います。

#### 山田市長

ありがとうございます。地域の特性を生かしながら、無理せずに緩やかなネットワークを作っていく、コーディネーターさんがキーポイントになるので、コーディネーターさんを支えられるように、生涯学習課とも連携しながら進めていくということなのだと思います。

半分、答えが出ているところもありますが、今後の地域学校協働活動の取組での課題、ご意見、ご要望があればお伺いしたいと思いますがいかがでしょうか。

これまでもいろいろとヒントになる言葉をいただきましたが、他にあればお願いします。洞口委員お願いします。

#### 洞口委員

最初の立ち上げの時に、やはり公民館が主体となって、各地域の町内会長さんとか、民生委員さんとか、色々関わってきたと思うのですが、それを次につなげる、何年かしたら次の方に、ということもありますので、そのようなところ、きちっと骨組みを作っていたきたいと思います。やはり、途中で挫折するのではなく、子供たちのために長く続けてほしいと思います。

#### 山田市長

ありがとうございます。確かにそうですね。先ほども洞口委員がおっしゃったように、出足は絶好調なのですが、それを長く続けること、また、役員さんの入れ替わりというか、世代交代のようなことになる、初代の方々と、次を担う方との間のギャップがあったり、つなぎが難しかったりということがあるのだと思います。そういったところについても、ぜひ、生涯学習の方で、しっかりと考えていただきたいと思うのですが、その点で何か今考えていることはありますか。

#### 群司社会教育主事

1 つは公民館の役割でありまして、先ほども申し上げましたが、高館公民館でボランティア養成講座を行いました。また、相互台では、PTAの委員に、「協働委員」という委員を今年から新しく設置しまして、保護者も継続的に協働活動に関われる仕組みを作っているという話を聞いております。

#### 山田市長

なるほど。それぞれの地区ごとに、特色のある取り組みをやっていたり、それが全体に波及できることなのであれば情報共有していただきたいし、いずれ、キーになるコーディネーターさんをどう支えていくのか、というところがとても大きいと思いますので、情報交換の場を設けたり、広域連携担当職員を生かして力を発揮していただいて、連携の職員とコーディネーターの方々、そして地域の方々が一つになって取組ができるといいかと思います。

他にありますでしょうか。浅野委員お願いします。

#### 浅野委員

コーディネーターさんになって下さる方、メンバーになって下さる方も、もともと自治会であったり、公民館の活動に入ったりして、そういう活動を理解した方がほとんどだと思いますが、この組織が出来上がって、正直、自分からやりたいとか、そういう部分でないというところもあると思うので、バックアップがないと、継続と上手な世代交代は難しくなるのではないかと思いますので、公民館が中心になることによって継続が可能となるのではないかと感じておりますし、広域連携の担当職員が、エリアごとの地域コーディネーターの中学校区の情報交換会の場を設定する、ということは本当に大事なことで、各地域の始まったばかりの活動に対する不安や、事業の内容や事務処理のことなども、様々な不安があるので、情報交換もとても大事な取り組みになるので、無理のない範囲で行うのが大事ですし、まずは継続のために、皆さんが快く、長く参加できるようなシステムができるといいな、と思います。

#### 山田市長

まったくそのとおりだと思います。公民館の役割、広域連携担当職員、それとコーディネーターさんを支える仕組みになるとは思いますが、その点についてはいかがでしょうか。

#### 大澤教育部次長兼生涯学習課長

現在それぞれの本部の皆さんは、積極的に活動に取り組んでいただいております。今も各委員から、継続性という意見をいただきましたが、公民館のかかわりは重要だと思っております。公民館の広域連携担当職員の中でも、情報共有を図り、また、コーディネーターの皆さんとも、そういう場の設定をしながら、協働活動を考えていきたいと思っております。本年度は15 学校区そろいましたので、そのように取り組んでいきたいと思っております。

## 山田市長

ありがとうございます。いずれ、持続可能な仕組み、形を作っていただきたいと思います。他はよろしいでしょうか。

それでは、次に進みたいと思います。

それでは(2)の不登校等児童生徒及び学び支援教室充実事業の取組及び各校の不登校対策についてを議題といたします。事務局より説明をお願いします。

## 高橋指導主事

学校教育課の高橋と申します。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

本日はご説明させていただくのは、不登校等児童生徒の状況と学び支援教室充実事業の取組及び各校の不登校対策についてでございます。

本日は3点についてご説明申し上げます。1点目は、名取市における不登校の現状について、2点目は、学び支援教室充実事業の成果と各校の取組について、そして3点目は、各関係機関との連携の必要性です。

はじめに、文部科学省で行っております児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査より、令和元年度及び2年度の不登校率について、全国と宮城県、そして名取市を比較しました。ここで示している不登校の定義は、年間で30日以上欠席をした児童生徒です。不登校率は、不登校児童生徒数を全児童生徒数で割って出したものです。なお、閑上小中学校については、前期課程を小学校、後期課程を中学校に計上しております。グラフからも読み取れるように、名取市の不登校率は宮城県の平均を上回っており、小学校では全国平均に比べて0.54ポイント、宮城県平均に比べて0.35ポイント上回っており、中学校では全国平均に比べて1.46ポイント、宮城県平均に比べて0.3ポイント上回っております。令和2年度の結果についてはまだ発表されておきませんが、名取市の数値だけを見ると若干減っているのは、2か月間の臨時休業によるものと推測されます。

次のグラフは令和2年度の名取市の学年別不登校率です。学年が上がるごとに増えているのが分かります。実際には、小学校がトータルで68人、中学校が110人になっております。中学校は特に深刻です。

では次のグラフをご覧ください。不登校だった児童生徒が学校に再登校できるようになった再登校率を表したグラフです。このグラフで注目したいのは、令和元年度と令和2年度の名取市の数値を比べた時に、特に中学校の数値が急激に伸び、令和元年度の全国平均に迫る数値になっているということです。実際には、令和2年度の再登校生徒数は小学校で7人なのに対し、中学校では24人になっております。中学校における再登校率が上がった要因を考えてみたとき、直接結び付くか精査しなければなりません。それを支える各学校の取組として、次の3点を紹介いたします。

1つ目は各校における別室登校教室等の取組と学び支援教室充実事業の取組です。2つ目は、はなもも教室との連携です。3つ目は、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、訪問指導員などの各関係機関との連携です。

初めに、各学校で取り組んでいただいている別室登校教室及び学び支援教室充実事業の取組を紹介いたします。昨年度、県のモデル校としてスタートした第二中学校の学び支援教室充実事業は、十分な成果が認められ、今年度は、全県区で取組が行われていて、第一中学校、増田中学校、みどり台中学校も事業に取り組んでいます。実践校は各学校内に学び支援教室を設置し、子供たちが安心して学習や学校生活に取り組める教室として機能させています。また、その他の学校でも、それぞれの校長先生方によるリーダーシップのもと、別室と呼ばれる別室登校教室を確保し、教室に入るには抵抗感のある児童や生徒が登校できる教室を準備することで、一人一人に寄り添った指導を行っていただいております。

これは、増田中学校の学び支援教室「いおえる一む」です。「いおえる一む」は昨年度までも別室登校教室として同じ機能をもった教室を運営しており、今年度からは実践校として配置された専任教員を中心に子供たちがそれぞれの目標をもって学習に臨んでいる様子です。入口には廊下から見えないような配慮があります。左側に写っている先生は話をしている生徒の学級担任です。教室には入れなくても、この教室に登校することで、連絡を受けた担任が足を運び、話をしたり、スケジュールを確認したりします。子供は、離れてはいてもいつもつながっている安心感を得ることができます。増田中学校については、令和2年度の再登校率が43%で13名の生徒が再登校できるようになりました。

次の写真は第二中学校の学び支援教室「ホットルーム」の様子です。県のモデル校としてスタートした第二中学校の学び支援教室充実事業の様子は、県の説明会の際にも紹介されております。パーソナルスペースが保てるようなパーテーションをつけ、個別の対応ができるように配慮されています。

次にははなも教室との連携です。今年で3年目になる名取市子供の心のケアハウス、いわゆる「はなも教室」では、学校になかなか足が向かない子供一人一人と向き合いながら、社会的自立や学校復帰に向けた支援をしています。この写真は、はなも教室で学習しているこどもたちの様子です。学習タイムを決めて無理のない学習に取り組めるように配慮しています。これは2階の個別スペースです。個別に学習できるスペースが確保されており、無理のない形で個に合わせた学習を行うことができます。教室内ではコロナ対策も行われております。ピアノを弾くことができるスペースがあるほか、様々なイベントも行われており、時には習字教室も開かれているとのことでした。学習するスペースとゆったりできるスペースが融合されている温かみのある教室です。掲示物にも工夫が見られます。掲示物は、子供たちが制作した作品もありますが、支援員さんの工夫を凝らした写真や作品が目を引きまします。

最後に各関係機関との連携です。各校に配置されているスクールカウンセラーを初め、市に2名配置されているスクールソーシャルワーカー、そして、各中学校及び義務教育学校に配置されている訪問指導員は、それぞれが各校でニーズに合わせたアドバイスやアセスメントを行っています。また、名取市のこども支援課や家庭児童相談室とも定期的に情報交換をしながら各校で連携を図っています。不登校の子供に対する支援の考え方については、様々な研修を通して理解が深まってきました。

まずは我々大人が、不登校を問題視するだけではなく、子供の将来や社会的自立を第一に考え、学校に登校することが全てではなく、一人一人の状況に応じた学習の確保を考えてい

く必要があるのだと考えます。不登校等児童生徒学び支援教室充実事業の推進を通して、不登校児童生徒にとって安心して生活できる校内環境を整備することやその中で行う学習支援と社会的自立に向けた支援の充実が大切になってきており、学び支援専任教員はその大きな役割を担うことになるとともに、それを支えるチーム学校としての雰囲気づくりがこれからの不登校支援につながると考えます。

とはいっても、各校の捉えは様々であり、お互いの歩み寄りや連携の強化が不可欠です。小学校、中学校、そして卒業後もつながる支援の充実が必要です。今後は様々な研修会や情報交換会を通して、学校と各関係機関がスムーズに連携を図ることができるようにしていきます。

登校の児童生徒にとっては、もちろん、どの児童生徒にも共通していえることは、学校以外の「どこにいても誰かとつながっている」ことが重要であるというスタンスで支援を進めていくことだと考えます。名取市の不登校等児童生徒が減少することだけに目を奪われるのではなく、子供ファーストの目線で一人一人に寄り添い、一人一人の未来を考えた支援をしていくことが大事であり、その支援がやがて、不登校等児童生徒の減少につながればと考えます。

これで説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

#### 山田市長

ありがとうございました。非常に深い話と思い、聴いておりました。

それでは、ただいまの説明で確認しておきたい事項等があれば確認、質問をお願いします。

いかがでしょうか。不登校率も高いですが、再登校率も上がってきているということがありました。それには、様々な別室登校等の支援があって、はなもも教室の連携、スクールカウンセラー、ソーシャルワーカー等々との連携があって、そういうことにつながっている。目指すところは、社会的な自立だ、ということだと思いますが、何か確認等がありますでしょうか。

#### 洞口委員

名取市全体の不登校が多いということで拝見しました。確認したいのですが、市内の学校で、児童生徒数が多いところと少ないところがありますが、比較的、多いところの不登校は多いのでしょうか。

#### 山田市長

児童生徒数に比例して、もちろん数は増えるのですが、不登校の率というか、それが関係してくるのかどうかですね。その辺いかがでしょうか。

#### 高橋指導主事

一概には言えないのですが、ほぼ比例していると思います。

山田市長

多い学校は不登校率も高いように感じられるということですね。そこから何か見出せますか。例えば一人一人に対するケアの方法など。

洞口委員

近場で上げますと、増田中学校はかなり多いです。やはり、先生方も一生懸命なのは分かりますが、どうしても消極的な子供は先生と触れ合う機会を逃しているのではないかと思います。それで、だんだんと学校に行きたくなるというのもあるのではないかと思います。名取市の場合にはなもも教室がありますので、そういうところに行っていただければまだいいのですが、なかなかそこまで足が向かない子供もいるのではないかと心配しております。

山田市長

今のは、不登校になってからということではなく、不登校になる前の部分だと思います。特に消極的なお子さんが、本来、支援が必要というか、先生に相談したりということが上手くいっていないところがあるのではないかというご指摘だと思いますが、そういったところはどのようにお考えでしょうか。

高橋指導主事

私は昨年度まで増田中学校におりました。昨年度の状況をお話しますと、私が2年前に赴任した時には不登校の子供たちが60人近くいました。学校になかなか来られない、という子供たちが多かったのですが、結びつくかどうかは分かりませんが、別室教室を作ったことによって、なかなか周りの子と接することが苦手な子供たちも、別室ならば登校できる、それから別室の先生とならば話ができる、というような状況が作れたために、1年に50~60名いた不登校の生徒が30人に減りました。毎日の欠席の子供たちの状況が、50~60人いた中から、30人に減ったということは、やはり別室教室の効果、及び先生方の日常的な子供たちとの関わりが功を奏したのではないかと考えております。本年度学び支援教室が本格的に動きまして、本年度の欠席は、毎日20人に減っているということも聞きましたので、一概には言えないとは思いますが、そういった自助努力が成果につながっていると思います。

山田市長

ありがとうございます。他に何か確認等あればお願いします。

佐藤教育長職務代行委員

昨年度の不登校が、小・中合わせて178名ですけれども、はなももとか学び支援とか別室とか、それに引っかけたこないというか、そこまでいかない子供たちが、割合としては半数位あるということでしょうか。そういうところに足が向かず、家にいるという子供の割合はどの程度でしょうか。

#### 高橋指導主事

昨年度の、全く、1日も登校していないという児童生徒は、小学校で2名、中学校で1名でした。90日以上欠席している児童生徒は、小学校では32名、中学校では64名いました。

#### 山田市長

そうすると、ざっくりと半分とか、半分強という感じですね。そういうお子さんは、90日ということなので、学校にも行けない、はなももにも行けない、というお子さんということですね。どうでしょうか。この数字は。

#### 佐藤教育長職務代行委員

かなり多いですね。簡単にはいかないですね。子供たちは自信が持てないということがまずあって、でも、勉強は分りたいとか、そういう想いもありながら、でも学校に行けないという後ろめたさもありながら、難しいのだと思いますが、そういう機会をできるだけ提供する必要があるのだな、とと思っていました。私自身は平成7年度ぐらいから、ずっと夜に授業をしていました。子供たちが部活を帰った後に、授業をするから、と呼んで、授業をする、と。それも、学年関係なく、集まってみんなで考える授業をする、ということをやっていて、かなりの数、昼間の学校にも足が向く、というようになったので、そういうことを求めているとは思いますが。学ぶ喜びとかを求めている、ただし、時間外なので非常に難しいとは思いますが。そういうような、陰ながらの努力も必要なのかな、と、公にはなかなか言えないのですが、そういう想いをしています。

#### 山田市長

子供たちの、自信が持てない、とか、学校に行きたいんだけどいけない後ろめたさとか、本当は学びたい、という気持ちをよく把握されていてとても響いてきたのですが、実態は、色々なことがあって、だと思えるのですが、典型的な例、というか、周囲の子供たちとうまく行かない、ということがきっかけ、あるいは家庭の事情がきっかけなどで、来れなくなって、勉強が遅れて、さらにはまってくるというか、そういう感じなのでしょうか。別室とか、学び支援をしていく理由というか、背景はどのようになっているのでしょうか。

#### 高橋指導主事

文部科学省で調査をした結果だけなのですが、昨年度の結果を見ると、不登校の要因として挙げられるのは、小学校・中学校ともに1番多いのが、「無気力・不安」、次いで、小学校では「親子のかかわり方」、中学校で2番目に上げられるのは「人間関係をめぐる問題」でした。

#### 山田市長

なかなか掘り下げるのが難しい課題ですよ。そうすると、対症療法ではないのですが、そうなったお子さんに対してどういう支援ができるのか、ということを考えていかなければ

ならないということなのでしょうね。

他にありますか。荒井委員いかがでしょうか。

#### 荒井委員

理由はいろいろだと思いますが、別室にしても、はなもも教室にしても、それぞれの子供がやりたいこと、得意なこと、そういうことを軸にして、そういうことならやれる、やってみたい、という経験を積むことが大切なのかと思います。そのためにも、はなももではこういうことをやっていく、別室ではこういうことをやっているよ、という、色分けというか、意識づけというか、特徴づけをしていくと選択がしやすくなるのではないかと思います。逆に、今通っている子が「こっちの方がいいな」となっても困るのですが、そういう特色を打ち出せるといいかと思います。

#### 山田市長

子供たちの特性、興味、関心を伸ばしてあげる、ということですよ。ありがとうございます。

浅野委員いかがでしょうか。とても深い問題と思いますが。

#### 浅野委員

はい。とても難しすぎて。私の娘は高校生ですが、やはり中学校の時は「行きたくない」ということもありました。でも、学校には行かなきゃいけない、なんで行きたくないのか自分でも分からない、と、高校生になっても言うてはいるのですが、それが、小学生で「無気力・不安」を感じるというのは何なのだろうな、と。こんなことを言うのも失礼ですが、うちの娘も、先生の言葉が響かない、とか、そういうことを言ったりすることもあったりして、先生方も頑張っているのですが、それが上手く子供に伝わらない、ということもあるのだろうな、と。大人がどのような心持というか、子供と向き合うという難しさ、先生も、ソーシャルワーカーの方も、日々いろいろなことを考えて、子供たちに対して向き合おうとしているのですが、実際は子供が心を開かない限りは、声をかけても、一歩を踏み出すまで時間がかかるのであろうと思います。

#### 山田市長

社会全体の問題のような気もします。子供たちは本来、夢があったり、無邪気だったり、するはずなのに、無気力だったり、不安を持ったりということを聞かせられると、大人が希望を抱けないでいるから、子供に伝染したりとか、それが子供たちに伝染するといじめにつながったりするのではないかな、とか、社会全体の問題につながっていくのではないかな、と思います。

暗い話になってしまいましたが、今後の不登校対策の活動について、課題は十分出ましたが、意見、ご要望があればお伺いしたいと思います。

佐藤教育長職務代行委員

今年は特に、私は今、大学で授業をしておりますが、昨日、学級づくりについての授業をしたのですが、今までと違って、学生ですが、今までは、そのクラスで合唱コンクールとか文化祭とか、それを頑張るのが大事で、そこでいろんなことが学べた、という意見が多かったのですが、今年は、何気ない語らいとか、一緒に遊んだとか、そういうことが人間関係作りにおいて大事なんだな、という発表が多くてびっくりしています。そういう場がコロナ禍で今年は失われてしまったということで、改めて、学習とかではなく、何気ない日常、安心できる環境とか、友達を作るとか、そういうことが大事だったんだな、というような傾向が出てきて驚いているのですが、究極は、学校は楽しいんだよ、勉強って面白いんだよ、ということをいろんなチャンネルで伝えていくのが大切だと思います

山田市長

学校は楽しい、勉強は面白い、それを子供たちが実感してくれれば、自然と色々な活力がわいてくると思うので。とにかく、今、無気力とか不安とか、子供たちの胸の中にあるようなものを、大人が何とかして取り除いていかなければならないのかな、と思います。先-ほど、荒井委員からは子供たちの興味があることをさせてみてはどうか、という意見がありました。補足等ありますでしょうか。

荒井委員

佐藤委員がおっしゃるとおりだと思って聞いておりました。一斉に、「やるぞ」というやり方も必要なのではと思うのですが、そういうところの中で、生徒同士とか、教師と生徒との関係性がだんだんできてくるのが大切なんだろうな、と思いました。

山田市長

ありがとうございます。洞口委員いかがでしょうか。

洞口委員

少しだけ不安なところがあります。学校で別室を用意し、そこで子供たちを指導するということですが、そこで、楽しい雰囲気づくりもそれはそれでいいのですが、他の生徒との兼ね合いもあって、その生徒たちがそちのクラスの方が楽しそうでいいな、とならないか心配だし、そうなると、はなもも教室を充実させた方がいいのかな、と思いました。

山田市長

同じ学校の中の生徒が、ということですか。

洞口委員

はい、他の生徒たちが教室を覗いて、こっちの方が楽しそうでいいな、とならないといいな、と。特に児童生徒数が多い学校はそういうところがあるかな、と。

山田市長

実態としてはどうでしょうか。

森下指導主事

私は昨年度第二中学校にいて、学び支援学級充実事業モデル校ということでスタートさせていただいて、やはり最初の方は、「なぜそちに行くんだろう」というか、そういう雰囲気も、確かに子供たちの中に、そして教員の中でもあったのは事実です。ただ、だんだんと、担任の先生とか、クラスの中で、どうしても行きたくてもいけないとか、名前を出すわけではないのですが、機会を見て話をしたりとか、あるいは給食を運んでくれるか、と、別室の教室の方に運ぶなどして関わっていく中で、だんだんと抵抗感というのは消えていくのだな、ということを感じました。なので、教員の声掛けというのは子供たちにとってもとても重要だと思っていました。今は多様化を認めるということもありますが、そういうのとも相まって、そういう子たちも、本当は行きたいんだけど、ということ伝えるということで、だんだんとそういう雰囲気が無くなってきたと感じておりまして、最後の方は壁のない状態になっておりました。

山田市長

洞口委員のご心配もごもっともだと思いますので、そのあたりも配慮いただければと思います。

教育長いかがでしょうか。

瀧澤教育長

今、森下が申し上げたとおり、実際学校で、私もクラスに不登校の子がいたときに、他の子との兼ね合いで、その子を特別扱いできないし、非常に苦慮したこともあります。ただし、けがをした子がいれば特別に保健室で休ませたりするのと同じように、どの子でも、不安な状態で不登校状態になるかもしれない、その時に、きちんと先生が対応してくれる、ということを見せるということも、大事なのかな、と思います。それから、私は、それだけではだめだとは思いますが、先生方の熱意、というのがキーになってくると思います。先ほどの佐藤委員のような先生、さすがに夜やって、とは言えませんが、60人が30人になったというのは、先生方の思いだと思います。私は教育長という立場で考えた時に、先生方の熱意におんぶしているところはあるな、と思います。本来ならば業務改善をしたり、定数改善を働きかけて、学校の先生が余裕をもって子供たちに関われるような環境を整えて行くということが大事なのかな、と思います。それから、先ほどから何回か出ていた多様性の対応、自立、居場所を作っていくというあたりを、共通認識を持って取り組んでいくことが大切だと思えます。なかなか、劇的な改善は難しいですが、これからも関係機関と連携をして取り組んでいきたいと思えます。

山田市長

ありがとうございます。今、教育長からいただいたような、先生方が子供たちと向き合える、時間を作れる環境整備であるとか、多様性にしっかり対応できるような、そういった、名取市全体の施策についても、ぜひ連携しながら進めていきたいと思います。

それでは、事務局は本日の協議内容を十分に受け入れていただき、事業に取り組んでいただきたいと思います。

総合教育会議はこれまでとさせていただきます、以上で本日の議題についての会議は終了とさせていただきます。

その他、事務局から何かありますでしょうか。

芳賀教育総務課長

特にございません

山田市長

ないようですので、以上で終了させていただきます。本日はお忙しいところありがとうございました。事務局へお返しします。

芳賀教育総務課長

本日は、大変活発な意見交換をしていただき、ありがとうございました。

以上をもちまして、第13回名取市総合教育会議を終了いたします。大変ありがとうございました。

10 終了時刻

午後2時01分